

全ての学級で 少人数指導が実現 中学校の数学と英語

今年度から、中学校の数学と英語の両教科で、1～3学年を通して全ての学級で少人数指導を行っています。県内の市では、最も先行した取り組みです。

両教科は個人差がつきやすいため、きめ細かで丁寧な指導が有効で、非常勤職員を14人配置することで実現できました。

少人数指導とは、学級を分割して指導をしたり、同一の学級を複数の教師が協働で教えたりする形態のことです。学習の基礎・基本を定着させるとともに、授業への理解が深まり、落ち着いた学校生活を送ることができるという効果が確認できています。

「少ない人数で授業に集中することができる」「質問がしやすい」という生徒の声や、「一人一人に目が行き届き、個々の課題に対応できる」「落ち着いた環境で指導が行える」という教師の声を聞くことができます。

来年度以降も、よりきめ細かな指導を行い、両教科の基礎・基本の定着を図ります。

図学校教育課 ☎70・5654。



学びづくり運動の様子



生徒のグループワークを参観
(春日台中の研究授業)



黒板を使って考えを伝え合う道徳
(落合小の研究授業)



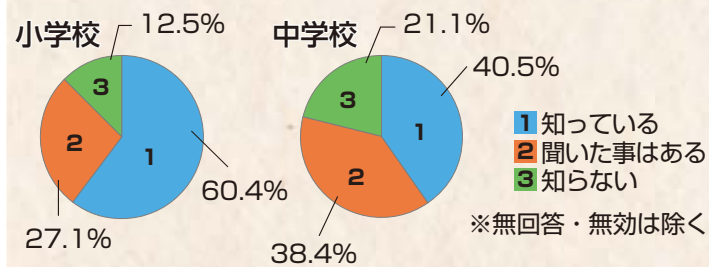
参観後、小グループに分かれて協議
(土柳小の授業後の研究会)

学びづくり運動 生活リズム大作戦

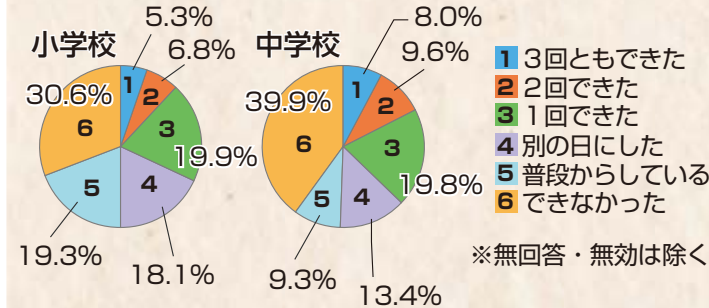


【26年度アンケート結果】

■ゼロの日運動を知っていますか



■前月はゼロの日運動を行いましたか



あやせゼロの日運動は、10日・20日・30日といった毎月ゼロのつく日にテレビやゲームを一休みし、親子で読書をしたり、団らんしたりするなど、家族でふれあう時間を充実させる取り組みです。子どもたちの成長に望ましい生活習慣を定着させ、豊かな心を育むとともに、確かな学力の向上のために「あやせ学びづくり運動」と連携して、24年度から行っています。

幼稚園、小・中学校を対象に、本年度に市内の保育園や小・中学校を対象に実施したアンケートの結果からは、運動の認知度・実施率は上がったものの、向上の余地を残していることが分かりました。この結果を踏まえて、今年度は基本的な生活習慣の定着に重要な年齢に着目し、市内の幼稚園のうち1園をモデルとして、保護者を対象に家庭教育アドバイザーが講演を行うなど、重点的に啓発事業を展開していきます。

図生涯学習課 ☎70・5658。

家族のふれあい充実へ あやせゼロの日運動

小学生の課題 ※グラフは学力・学習状況調査の結果（小学生）

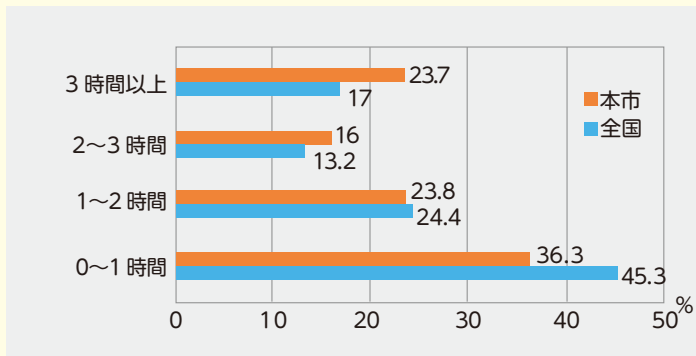
テレビやゲームの利用時間の見直し

普段、電子ゲームをしている時間の少ない児童は、教科の平均正答率が高いという結果が見られます。長時間の利用にならないよう約束を決めるなど、利用時間の見直しが必要です。

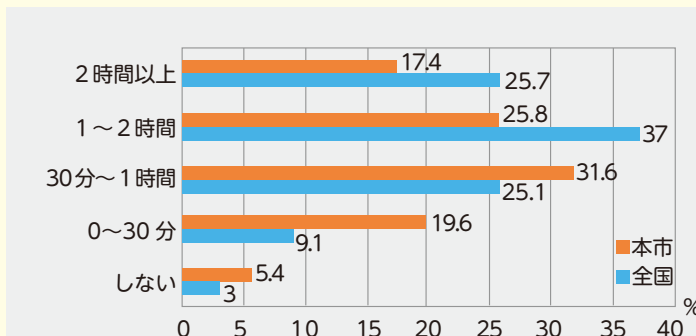
家庭学習の充実

テレビやゲーム、携帯電話などの利用時間を見直し、家庭学習の時間を確保することが必要です。また、進んで学習できるように、子どもの頑張りを認めるような言葉掛け、励ましをお願いします。

平日のゲームの利用時間



平日の家庭学習時間



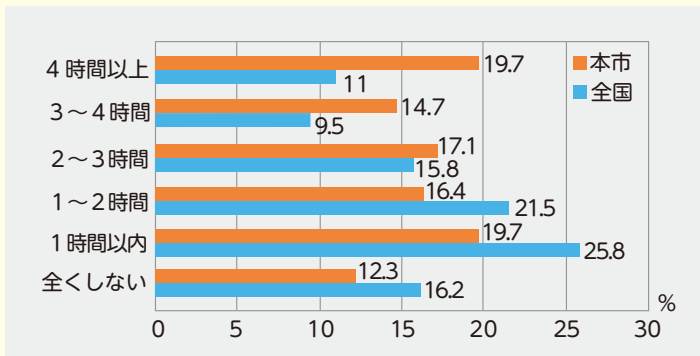
改善に向けて家庭で取り組みを

中学生の課題 ※グラフは学力・学習状況調査の結果（中学生）

テレビなどの視聴や、ゲーム、携帯電話・スマートフォンの利用の見直し

平日に2時間以上テレビなどを視聴したり、ゲームをしたりする生徒や、携帯電話やスマートフォンなどで通話やメール、インターネットをする生徒は、いずれも全国を上回っています。学習や健康に悪影響を及ぼさない適切な利用について、確認や見直しが必要です。

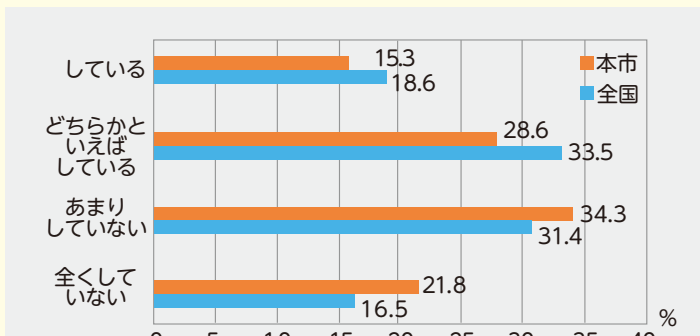
1日当たりのゲーム時間



家庭学習の支援や協力

授業の復習や宿題など、学習内容に課題がありました。家庭での復習は基礎・基本の定着に大変有効で、学力の向上にも直結しています。限られた時間の中で、目的意識を持って効果的・主体的に学習できるよう、励ましの声掛けや学習環境づくりをお願いします。

家での授業の復習



特集 綾瀬の教育

確かな学力の育成は 学校・家庭・地域の連携で

市教育委員会

市教育委員会では、子どもたちの確かな学力の育成に向けて、授業改善に取り組み、学校での学びの充実を図っています。また、家庭学習や生活習慣の改善のために、保護者の協力で学びづくり運動を推進しています。学力は、日常の生活習慣と関係があることから、学校と家庭・地域が連携して、子どもたちを育てていくことが大切です。

全国学力・学習状況調査の結果から見える子どもの姿

小6・中3を対象に実施 学力などを分析・改善へ

今年度の全国学力・学習状況調査が、小学6年生と中学3年生を対象として昨年4月に実施されました。同調査は、全国的な児童・生徒の学力や学習状況を把握・分析し、その改善を図るとともに、学校における児童・生徒への教育指導の充実や学習状況の改善などに役立てることを目的として行われているものです。

市教育委員会では、8月に文部科学省から出された結果を基に、本市の状況の分析を進め、12月にその分析結果を市ホームページなどで公開しました。

学校では、この分析を基に、児童・生徒の学力・学習の状況を把握する資料の一つとして捉え、指導の改善を図ることで、確かな学力の向上につなげていきます。

授業改善と生活リズム確立 あやせ学びづくり運動

確かな学力の向上に向けて

23年度から次の2項目を柱に「あやせ学びづくり運動」に取り組んでいます。

①授業改善 ②学習習慣・生活習慣の確立

学校では、子どもたちにその時間に行う学習の目標を提示し、学んだことを振り返って終わるという授業を進めています。

子どもが考えたことを発表する授業や、グループやペアで意見交換をしながら自分の考えを見直したり、深めたりする学び合う授業を大切にしています。

今年度は、春日台中学校、落合と土柳の両小学校を研究実践推進校として、他の小・中12校を研究実践協力校として、研究を進めま

各教科の結果から見える 本市の児童・生徒の状況

国語、算数・数学、理科の各教科に関する本市の結果は、全体の平均正答率が全国平均をやや下回っているものの、全国との差は昨年度に比べ縮まっています。

教科別では、国語は小・

②学習習慣・生活習慣の確立

パッチリ（早く起きよう）「モグモグ（朝食をしっかりと食べよう）」「コツコツ（時間を決めて毎日家庭学習をしよう）」「グッスリ（早く寝よう）」を合言葉に、家庭と連携して子ども